

山東京伝伝来の小紋文様と葛飾北斎伝来の小紋文様の比較検討

—17タイプの対称性の群の観点より—

利根安見子¹⁾、サキヤ ラタ²⁾、上野勝代³⁾、近藤誠造⁴⁾

1) 香川大学 医学部 2) 京都大学 工学研究科 3) 神戸女子大学 家政学部 4) 元京都府立大学

1. 江戸時代中・後期の浮世絵師・戯作者山東京伝(1761-1816)の[1]小紋雅話と同じく江戸時代後期の浮世絵師葛飾北斎(1760-1849)の[2]新形小紋帳は両者それぞれの個性、特色をよく表わした小紋文様図案集であり、好対照をなしている。京伝[1]の多くの文様は日常身近に見られるものやことをモチーフにしてそのパロディー化したもので構成されている。一方、北斎[2]の多くの文様は幾何学的モチーフを基礎にして構成されている。ここでは京伝と北斎の個性の特色の一端を比較検討するのに、それぞれ[1]と[2]に含まれている文様に焦点を当てて行いたい。両者それぞれのその他の著作作品に含まれる文様についても適宜補足することにする。

2. X を日本における江戸時代末までの芸術家、工芸家等の中の1人とする。 X の全作品、著作等の中に含まれている2次元繰り返し文様のすべての和集合を $M(X)$ と書く。なお、 $M(X)$ なる記号は X が1つの作品、著作等の場合にも流用する。 $M(X)$ の中で特に X の独創によるオリジナルな文様から成る部分集合を $Mo(X)$ と書く。表題に言うところの山東京伝伝来の小紋文様、葛飾北斎伝来の小紋文用とは、それぞれ $M([1])$ と $M([2])$ に両者それぞれの他の著作作品に含まれている文様のうちの若干のものを補足したもののことである。なお、諸専門家、研究者による解説に基づき $M([1])$ 、 $M([2])$ の文様はその大部分のものは、それぞれ Mo (京伝)、 Mo (北斎)に含まれていると、現時点では、私たちは考えている。 M を2次元繰り返し文様の1つの集合とする。 M に属する文様の2次元繰り返し文様としてのタイプの、 M の文様すべてにわたる、和集合を $Type\{M\}$ と書く。なお、2次元繰り返し文様とそのタイプ等に関する諸事項の説明については[3]を参照されたい。

3. 以上の用語と記号の下に、ここでは次のことを行いたい。 $Type\{M([1])\}$ と $Type\{M([2])\}$ に関する結果等をそれぞれ表1, 2に示す。それに基づいて $M([1])$ と $M([2])$ の特色を比較検討する。さらに表2に基づいて、 M (北斎)に関しては、特に次のことも示す。

(1) $Type\{M(北斎)\}$ は17タイプすべて含んでいる。

(2) $Type\{Mo(北斎)\}$ は17タイプの内の3個 pm , pgg , $p3m1$ 以外の14タイプすべてを含んでいる。

参考文献

- [1] 山東京伝著 小紋雅話 1790
([4][6]において復刊されている。)
- [2] 葛飾北斎著 新形小紋帳 1824
([7][12]において復刊されている。)
- [3] D.Washburn, D.Crowe, Symmetries of Culture, Theory and Practice of Plane Pattern Analysis, University of Washington Press, 1988.
- [4] 谷峯蔵著 遊びのデザイン—山東京伝「小紋雅話」—岩崎美術社、昭和59年
- [5] 小池藤五郎著 山東京伝の研究 岩波書店 昭和10年
- [6] 山口剛嶺解説 滑稽本集、日本名著全集 江戸文芸之部 第14巻 日本名著全集刊行会 昭和2年
- [7] 永田生慈 監修解説 北斎の絵手本 三 岩崎美術社 昭和61年
- [8] 永田生慈 監修解説 北斎の絵手本 五 岩崎美術社 昭和61年
- [9] 永田生慈 監修解説 北斎漫画 二 岩崎美術社 昭和62年
- [10] 永田生慈 監修解説 北斎漫画 三 岩崎美術社 1987
- [11] 鈴木重三解説 葛飾北斎 富獄百景、岩崎美術社 1986
- [12] 菊池貞夫、永田生慈、岩崎均史 監修 ポストンで見つかった北斎展 ポストン美術館の版木新発見・図録 東京放送 1987
- [13] 内田繁 デザイナーとしての北斎 [12]pp 121-122
- [14] 永田生慈 作品選定・監修 江戸が生んだ世界の絵師—大北斎展図録 朝日新聞社 1993
(図版編と解説編の2冊よりなる。)
- [15] 泡坂妻夫著 家紋の話—上絵師が語る紋章の美 新潮社 1997
- [16] 泡坂妻夫著 卍の魔力、巴の呪力—家紋おもしろ語り 新潮社 2008
- [17] 高田啓史著 小紋文様 グラフィック社 2007

表1.山東京伝伝来の文様

表2. 葛飾北斎伝来の文様

タイプ	[1] 小紋雅話において		左記以外の著作作品において	タイプ	[2] 新形小紋帳において		左記以外の著作作品において
	代表的例	個数			代表的例	代表的例	
cm	6*	26		cm	p.34下*	1	
pm	26*	5		pm			[9]p.35
pg	82*	1		pg			[8]p.159上*
p1	3*	50		p1	p.42上*	1	
cmm	93*	3		cmm	p.18上*	10	
pmm	19*	1		pmm	p.26上*	6	
pmg	34*	3		pmg	p.17上*	6	
pgg				pgg			[14]図版編p.55(図4) 同上p.240(図21)
p2	137*	1		p2	p.20上*	11	
p4m	116*	3		p4m	p.27上*	7	
p4g				p4g	p.13上*	2	
p4				p4	p.14上*	10	
p3m1	91*	1		p3m1			[11]p.12(右端の人物の着物の文様) [10]p.98の(箱の文様)
p31m				p31m	p.20下*	3	
p3				p3	p.32下*	1	
p6m	115	1		p6m	p.15下*	7	
p6				p6	p.13下*	11	

注意1. 上記表1、2における、文様の代表的例の所在を示す記号について：京伝[1]の文様に対しては、その文様の[4]における通し番号によって示す。北斎[2]の文様に対しては、その文様の[7]におけるページと上図か下図かによって示す。上記以外の文様に対しては、個々の文献とそのページ等によって示す。

注意2. 文様の所在を示す記号の右上につけた*印はそれぞれの著者によるオリジナルな文様であることを示す。

注意3. 上記表1、2において空欄となっている部分については、プリントにて補充した上で、シンポジウム当日に配布したい。